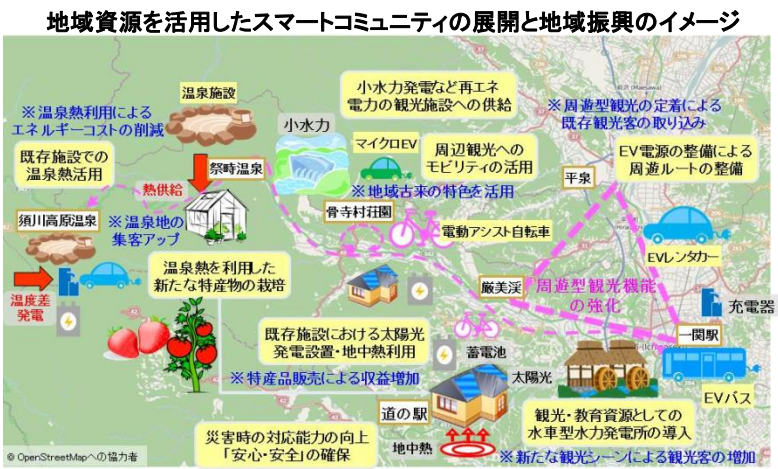
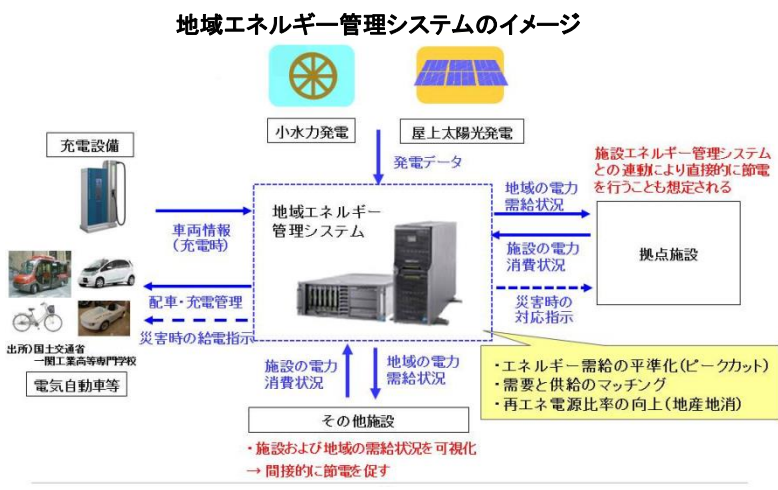


1. 補助事業者名：一関商工会議所
2. 対象地域：岩手県一関市巖美町
3. 補助事業の名称：地域振興型スマートコミュニティ事業化可能性調査
4. 調査概要及び結果

◆一関市と計画の概要
 一関市は岩手県最南端に位置し、人口・面積ともに県内で2番目の規模を有する都市である。世界遺産「平泉」観光の玄関口としての機能を担っているとともに、市では超大型加速器「国際リニアコライダー」(ILC)を地域発展の骨格に位置付けて、国際学術研究都市にふさわしいまちづくりを進めているところでもある。
 本事業においては、豊富な地域資源を活用するとともに、観光・地域の活性化に繋がる地域振興型スマートコミュニティ事業構想を実現すべく、調査を実施した。

◆スマートコミュニティの特徴
【再生可能エネルギーの活用】
 既往調査における導入ポテンシャルをベースに検討を行った。基礎的な再生可能エネルギーとして、建物屋上への太陽光発電システムの設置および地中熱利用システムを導入する。歴史的に水力の活用が盛んな地域であることから、土地改良区において既に導入されている小水力発電システムを、用水路や河川堰堤などへ展開できる可能性がある。また温泉地であることから、現在未利用の温泉排湯熱の有効活用についての検討を行い、エネルギーコストの削減に有効であるとの結論が得られた。
【エネルギー管理システムの導入】
 地域におけるエネルギー需要および負荷パターンについての推計を行った。
 上記の再生可能エネルギーの活用により得られた電力を地域内において効率的に活用するため、地域エネルギー管理システム(CEMS)の導入を検討した。これにより、省エネやエネルギー負荷の平準化、エネルギーの地産地消の推進に役立てるものとした。
【地域・観光の活性化】
 本地域の特徴を活かし、スマートコミュニティの取り組みを観光・地域振興につなげるべく、マイクロEVなどのモビリティの導入や温泉熱を利用した新たな特産物の栽培について検討した。また、同時にこれらの資源を活用したエコツアーを実施することにより、交流人口の増加を目指すものとした。



- ◆今後の展望**
- 第1段階(平成26年度～27年度)
 屋上太陽光発電、小水力発電、温泉熱、地中熱利用等再生可能エネルギーの導入
 - 第2段階(平成27年度～28年度)
 地域エネルギー管理システム、モビリティの導入、エコツアー事業の実施
 - 第3段階(平成28年度～29年度)
 地域PPS事業・デマンドレスポンスの活用